

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
149	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名（原題／訳）</b>	
<p>Providing web-based feedback and social norms information to reduce student alcohol intake: a multisite investigation.</p> <p>学生のアルコール摂取減少のための WEB 配信によるフィードバックと社会規範情報の提供：多施設介入試験</p>	
<b>執筆者</b>	
Bewick BM, West R, Gill J, O'May F, Mulhern B, Barkham M, Hill AJ	
<b>掲載誌（番号又は発行年月日）</b>	
J Med Internet Res. 2010 Dec 19;12(5):e59.	
<b>キーワード</b>	
学生, e-ヘルス(インターネットを活用したヘルスケア支援)、短期介入、アルコール、ウェブベースの介入	
<b>要 旨</b>	
<p><b>目的：</b></p> <p>WEB 配信の短期介入は、従来の治療方法の代替手段となるが、その介入効果と教育機関以外への一般化の可能性をみるためには、更なるエビデンスが必要である。そこで、本研究では大学生の適正なアルコール摂取のための WEB 配信による介入効果をイギリスの 4 つの大学で評価した。</p> <p><b>方法：</b></p> <p>本研究の参加者 1,112 人は、教育機関、性、年齢、学年、自己申告の週あたりの飲酒量で層化し、対照群、前期介入群、後期介入群に無作為割付を行った。各介入群は、それぞれ 1～7 週もしくは 8～15 週に介入プログラムに接続できるようにし、ログインすると個人別フィードバックと社会規範情報を提供された。参加者に簡単なスクリーニングの質問票を行うことで関心を持たせて、4 つのテストを 24 週間行った。評価には 1 週間の飲酒記録の振り返りと AUDIT(アルコール使用障害確認検査)および動機付けを用い、アウトカムは、前週のアルコール消費量とした。介入効果と前週の飲酒量は、多変量共分散分析で解析し、さらに時間ポイントをクラスタ化して縦断的回帰を用いてモデル化した。</p> <p><b>結果：</b></p> <p>多変量共分散分析により前週のアルコール消費量の時間効果が明らかになった。縦断的回帰モデルでは、少なくとも 2 つのテストが完了した参加者では飲酒量が低減することを示し、また介入群では効果の追加効果を予測した。前週のアルコール消費量の登録、性、教育機関、行動変容の準備度はテスト完了の予測因子ではなかった。</p> <p><b>結論：</b></p> <p>WEB を用いた学生への個人別フィードバックは週あたりのアルコール消費低減に効果があり、その効果に教育機関による差はみられなかった。本研究では監視による治療効果に加えて WEB 配信による介入によってさらに低減できることが示唆された。</p>	